

**マメトラ**

# 取扱説明書

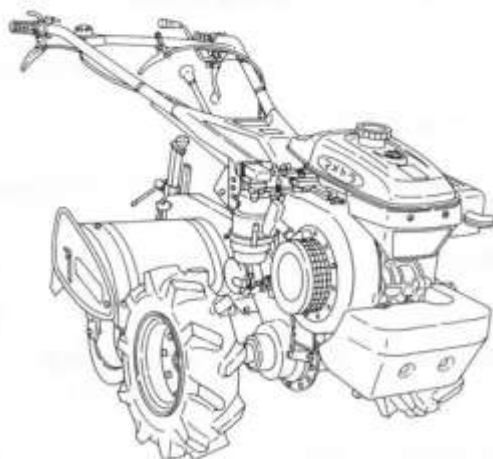


当製品を安全に、また正しくお使いいただく  
ために必ず本取扱説明書をお読みください。  
お読みになった後も必ず保存してください。

機種名

**MPC6X**  
**MPC7X**  
**MPC6W**

## マメトラパワフルカルチ



**マメトラ** 農機株式会社

## はじめに

マメトラパワフルカルチMPC6X・MPC7X・  
MPC6Wをお買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書は「マメトラMPC6X・MPC7X・MPC6W」の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき、最良の状態でご使用ください。

お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。

製品を貸与される場合は、この取扱説明書を添付してお渡しください。取扱説明書を紛失、汚損された場合は当社または当社の特約店に連絡してください。

なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

ご不明のことやお気付きの点がございましたら、お買い上げいただきましたお近くの特約店・販売店にご相談ください。

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

### ◆注意表示について

本取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。



**危険**

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



**警告**

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



**注意**

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

## サービスと保証について

### ☆保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

### ☆アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社営業所までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名・区分
- 機体番号・エンジンの場合エンジン番号
- 故障内容（できるだけ詳しく）

### ☆補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、納期および価格についてご相談させていただきます。

[例]

農業機械の種類	農用トラクター（歩行型）
型式名	マメトラ MPC6
区分	MPC6X
エンジンの型式	GM181LN-371
機体番号	10001
製造・販売元	マメトラ農機株式会社



### ☆取扱説明書について

本機取扱説明書を紛失・破損した場合No143,1511,000でご注文ください。

# 目次

はじめに	I
サービスと保証について	II
目次	1
1 安全な作業をおこなうための心得	2
2 安全マーク貼付位置	6
3 各部の名称とはたらき	8
4 作業前の注意	10
5 操作方法	14
5-1 エンジン始動のしかた	14
5-2 発進のしかた	16
5-3 変速のしかた	16
5-4 旋回のしかた	17
5-5 駐・停車のしかた	17
5-6 トラック等への積込みと積降しのしかた	19
5-7 エンジン停止のしかた	20
6 作業方法	22
6-1 耕うん作業のしかた	22
6-2 作業速度の選びかた	23
6-3 作業に合わせた各部の調節	23
6-4 車輪幅の調節のしかた	24
6-5 耕うん深さの調節	24
7 作業後の点検・整備	25
7-1 作業をしたらそのたびに手入れ	25
7-2 定期点検と整備	26
(1) エンジンオイルの点検と補給	26
(2) エンジンオイルの交換	27
(3) ミッションオイルの交換	28
(4) エアクリーナーのお手入れ	28
(5) ストレーナーのお手入れ	29
(6) 燃料パイプの交換	30
(7) 点火プラグの調節と交換	30
(8) レバー類の作動の点検と調整	31
8 長期間使用しないときの格納のしかた	35
9 不調診断	36
10 特長	38
11 仕様	39
12 電気配線図	40
● 安全説明確認カード	

# 1 安全作業のための心得

## ■本機を使用するにあたって

### 使用する人の条件

次のような項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき
- 妊娠しているとき
- 子供の方
- 取扱方法を熟知していない人



### 使用する人の服装

機械に巻き込まれる事故を予防するため、はち巻き・首巻き・腰タオルをしないでください。また、滑って転倒する事故を予防するため、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、だぶつきの無い服装をしてください。



服装や体の調子に注意

### 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。



### 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外のアタッチメントを取付けしないでください。また、機械を改造しないでください。



## ■点検整備をしてください

### 1年毎に定期点検整備を

機械の整備不良による不具合や事故を予防するために、1年毎に定期点検・整備を受け各部の保守をしてください。特に燃料パイプや電気配線は、2年毎に交換して、機械が最良の状態、安全に作業ができるようにしましょう。



### 点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備をおこなってください。特に、クラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。



## ■点検整備をしてください

### 点検・整備・掃除をするときは

点検・整備、またはアタッチメントの脱着・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり動いたりしない平坦で安定した場所を選び、エンジンを止めてください。また、誤ってエンジンが始動することのないよう燃料コックを閉にし、完全な停止状態で過熱部分が十分に冷めていることを確認してからおこなってください。



### 排気ガスには十分に注意

屋内などでエンジンを始動する場合、排気ガスによる中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所でおこなうようにし、十分に換気をおこなってください。



### カバー類は必ず取付ける

ベルトカバーなどの防護装置を取外す場合は、必ずエンジンを止め、完全な停止状態を確認してからおこなってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。



### 給油・注油するときは

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、火傷や火災の危険がありますので絶対に給油・注油しないでください。また、給油中はタバコや裸火照明などの火気は厳禁です。



### 長期格納するときは

火災などを予防すると共に、燃料の変質による不具合を防止するために、燃料タンク・気化器内の燃料を抜き出し、バッテリーを取外して保管してください。



### 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

### エンジンの始動や発進するときには

クラッチを【切】り、変速レバーを【止】にし、周囲の人に合図してからエンジンを始動してください。周囲の人に危害を加えたり転倒や衝突したりしないように周囲の安全を確かめ、急発進ないように徐々に発進してください。

# 1 安全作業のための心得

## ■作業・移動をするとき

### 二人以上で作業するときには

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

### ベルトを交換したり、爪を交換するとき、巻き付いた草などを取除くときは

必ずエンジンを止めてからおこなってください。



### 回転している爪には十分気をつけて

回転する爪に巻き込まれると重傷を負うことがあります。特にロータ作業では、ハンドルを持ち上げて旋回するので足元には十分に気をつけてください。



### ロータリ作業や車輪作業では機械の飛び出し(ダッシュ)に注意

ロータリ作業や車輪作業中、地面が固かったり石を噛んだ場合、またはロータリを急激に地面に降ろしたりすると、回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す(ダッシュ)ことがありますので十分に注意してください。

特に、川や崖、人のいる方向に飛び出す(ダッシュ)と、転落や人身事故を招く恐れがあります。



### 機械から離れるときには

機械から離れるときには、平坦で安定した場所におき、エンジンを止め、各部が完全な停止状態になっていることを確認してください。やむを得ず傾斜地に置くときは、必ず止めをしてください。



### ハンドルを逆向きにするときは

サイドクラッチレバーの左右を切り替えないと、思わぬ方向に旋回してたいへん危険です。必ずサイドクラッチレバーの切り替えをし、確実に作動することを確認してください。

サイドクラッチのレバーは切り替えた?



### 後進しながら作業するときは

転倒しないように足元に十分に注意し、後方に障害物がないか確認して後方の障害物と本機との間に挟まれないようにしてください。特に、ハウス内では、壁や支柱との間に挟まれたりすることの無いようにしてください。

ロータリ部が作業者の直前に来るような後進作業は危険です。ハンドルを180°回転して作業をしてください。

後進作業は足元に注意して!



## ■作業・移動をするとき

### 移動するときは

坂道・凸凹の激しい道・曲がり角・そばに溝がある道・路肩の弱い道などでは、スピードを落とし、最も安全に通行できるところを選んで通ってください。

また、焚き火や排ワラを燃やしている近くは走行しないでください。事故や火災の原因となります。



### 急な発進・停止・旋回、スピードの出しすぎ禁止

スピードを出しすぎたり、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も短めますのでおこなわないでください。



### わき見運転・片手運転禁止

ハンドルやクラッチは正しく操作し、わき見や片手での運転はしないでください。



### 坂道では

坂道では、操向クラッチレバーを操作すると、機械が思わぬ方向に旋回してしまうことがありますので、操向クラッチレバーを使わないでハンドルを振って方向転換をしてください。



### 溝や畦を横断したり、軟弱な場所を通るときには

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずに通ってください。

もし、落ち込んだ場合には、無理に脱出しようとせず、まず状況を判断して適切な処置を巧じてください。



### トラックなどに積込み・積降しするときは

平坦で交通の安全な場所で、トラックなどが移動しないようにエンジンを止め、サイドブレーキをかけ歯止めをし、幅・長さ・強度が十分あり、表面がすべらないように処理してあるアユミ板をかけ、最低速度で操向クラッチレバーを使わずにおこなってください。

また、登るときには前進、降りるときには後進でおこなってください。さらに、積込んだときには、本機に歯止めをし、十分に強度あるロープでトラックに確実に固定してください。





## 2 安全マーク貼付位置

警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

### 耕うん・管理機 + 安全五憲章

1. 道路走行・圃場の出入り・車への横断しの際は必ずロータリの回転を止めます。
2. 圃場を走行するときは、スピードを落とし直視に注意します。
3. 圃場の出入り・車への横断しは上りは前進、下りは後進で行います。
4. バックをするときはスピードをゆるめの前進の障害物に注意します。
5. 機体の点検・調整・整備は必ずエンジンを止めてから行います。この機械をお使いになるときは慎重して下さい。

BMA 0009 000

### 安全作業のために

点検、調整時には必ず  
原動機を停止してから  
行ってください。

M86 0717 000

### ⚠ 危険



火気  
厳禁

- 給油時は必ずエンジンを停止して下さい。
- 給油口に火を近づけると火災の危険があります。KW56069AA

⚠ 無鉛ガソリン



カバーの取り付け、取り外しは、必ずエンジンを停止して行うこと。

BMA 0516 000



注意

KW56070AA



マフラー高温注意

さわるとやけどをするおそれがあります。



警告

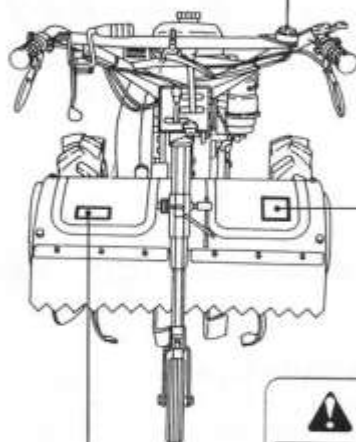


排ガスに注意

室内や換気の悪い所での運転は人体に有害で危険です。

停止ボタン  
ワンタッチ

BMA 0149 000



**注意**

ご使用前に取扱説明書をよく読んで安全に作業をして下さい。

BMA 0155 000

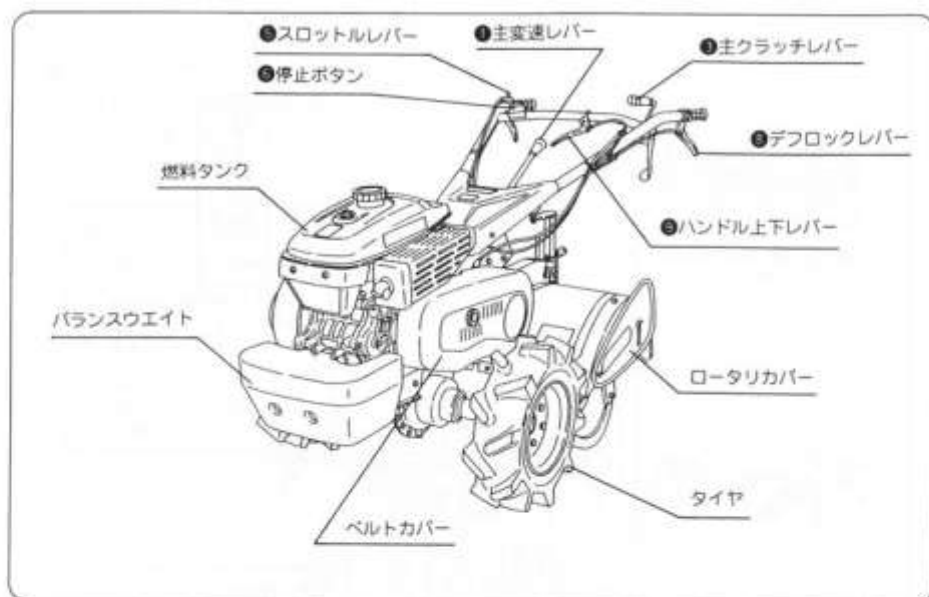
**警告**



後進後、ハンドルが跳ね上がり足元が意外にロータに近づき危険なので  
① 後方に障害物がない事を確認する。  
② 主クラッチが何時でも切れる様に主クラッチレバーから手を放さない。  
③ 特に立木等の狭い所では注意。

BMA 0002 000

### 3 各部の名称とはたらき



#### ①主変速レバー

変速レバーの操作は必ず主クラッチレバーを【切】にして操作してください。

#### ②ロータリ変速レバー

【低】位置にすると土塊が大きくなります。

【高】位置にすると土塊が小さくなります。

【正】位置にするとロータリが前方向に廻ります。(MPC6W)

【逆】位置にするとロータリが逆転します。(MPC6W)

#### ③主クラッチレバー

レバーを前方に倒すと【入】となり、レバーを手前に引くと【切】となります。

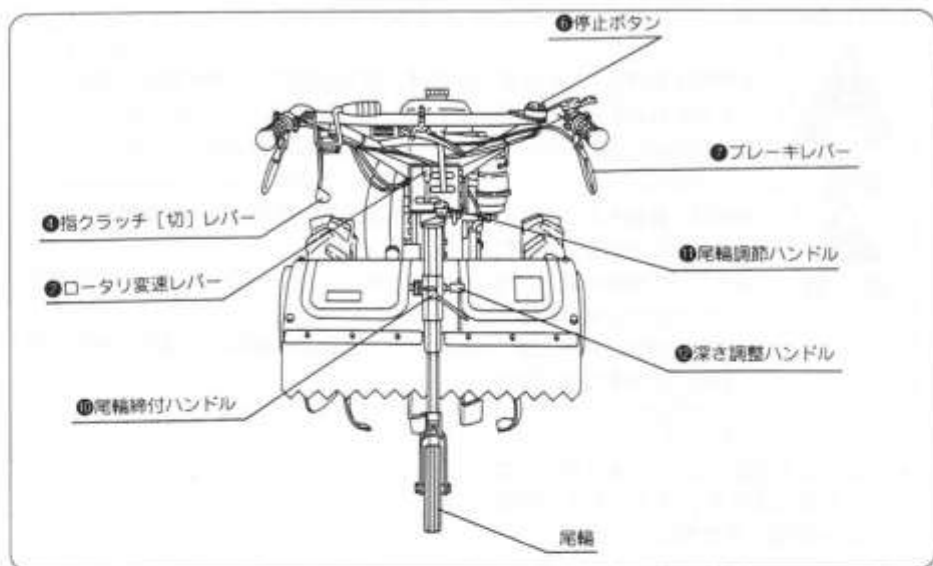
#### ④指クラッチ切レバー

このレバーを押すとハンドルを握ったままワンタッチで主クラッチを【切】にすることができます。

#### ⑤スロットルレバー

レバーを中間位置でスタートし、いっぱい内開きにしますとエンジン回転が上がります。

レバーを戻すと回転は下がります。



**⑥ 停止ボタン**

ボタンを押すとエンジンは停止します。緊急停止の際もボタンを押してください。再始動の際は5～6秒後にスタートしてください。

**⑦ ブレーキレバー**

駐車の際に使用してください。解除の際はノブを押してレバーを戻してください。

**⑧ デフロックレバー**

軟らかい圃場や凹凸の多い圃場で片輪がスリップして脱出できないときにレバーを握ってロックしてください。解除の際はノブを押してレバーを戻してください。

**⑨ ハンドル上下レバー**

作業者に合わせてハンドル高さを調節してください。レバーを握ると3段階の調節ができます。

**⑩ 尾輪締付ハンドル**

尾輪を固定します。また耕深を調節するときに使います。

**⑪ 尾輪調節ハンドル**

耕深の微調節をするときに使用します。右に廻すと深く、左に廻すと浅くなります。

**⑫ 深さ調整ハンドル**

抵抗棒・尾そりを固定します。また耕深を調節するときに使います。

## 4 作業前の注意

1) 作業前には必ず次の点検をおこなってください。



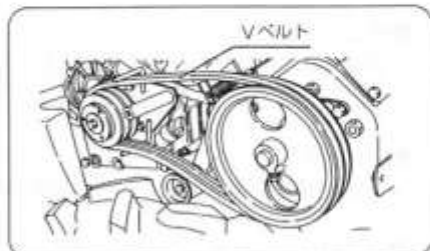
★燃料補給時は、くわタバコや裸火照明を絶対にしないでください。  
火災を起こす危険があります。



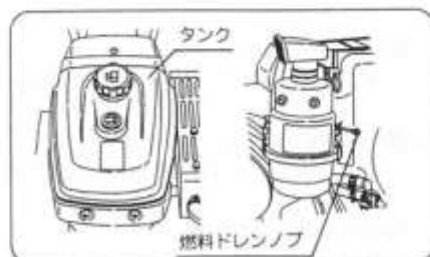
★点検・整備をおこなうときは、必ずエンジンを停止させ、過熱部分が冷めてからおこなってください。  
★エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。やけどや火災の恐れがあります。  
★燃料を補給したあとは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。

- エンジンオイル、ミッションオイルは入っておりません。オイルの入れ方は(26～28頁)を参照してください。

- ① 走行用のVベルトの摩耗や損傷、ならびにゆるみがあれば調節や交換をしてください。

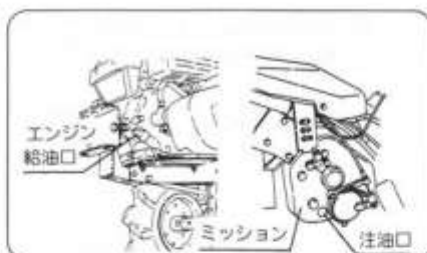


- ② 燃料タンクに必要な燃料を充分に入れて、燃料がキャブレターまで円滑に流れていることを確かめてください。  
火気厳禁

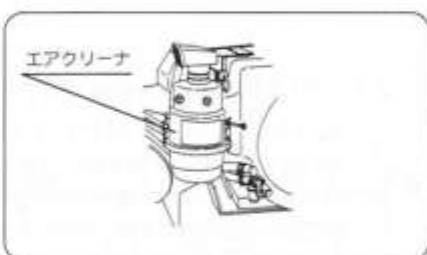


③ エンジンオイル、ミッションオイルの量の確認

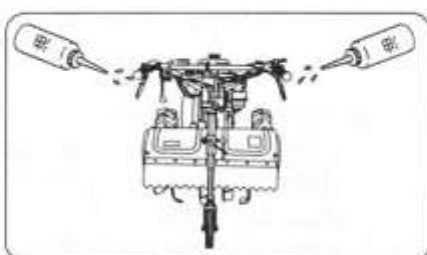
冬期間、寒冷地等ではエンジンオイルは10番を使用してください。夏期間は20番、30番にしてください。ミッションオイルは90番を使用してください。



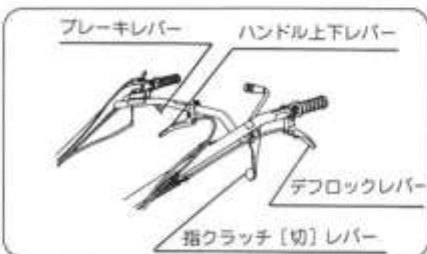
④ エアクリーナが汚れているときは、洗浄してください。



⑤ ワイヤレバー等の支点や回動、作動部に注油をして円滑に作動するようにしてください。

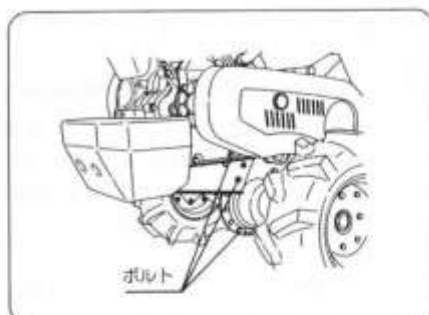


⑥ 主クラッチレバー、変速レバー、ロータリ変速レバー、ブレーキレバー、デフロックレバー等が正しく作動するか確認してください。

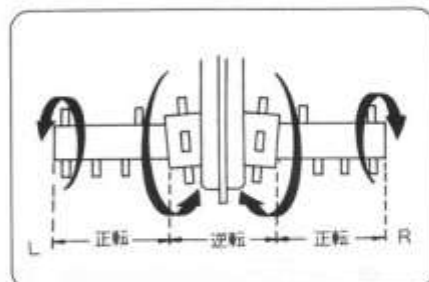


## 4 作業前の注意

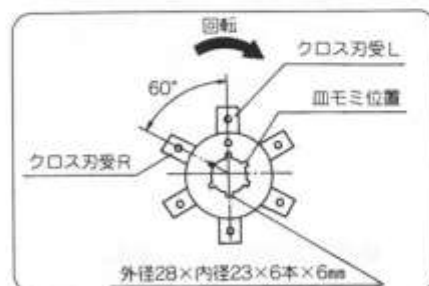
- ⑦ 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検してください。



- 2) クロス爪と耕うん爪の取付けかた (MPC6X、MPC7X)  
 固い圃場で耕うん作業を行いますと、時々ダッシング現象 (機械の飛び出し) が発生し大変危険ですが、MPC6X、MPC7Xは1軸正逆転方式 (クロス刃受の白い爪が逆転し、外側の耕うん刃受が正転する) を採用しております。

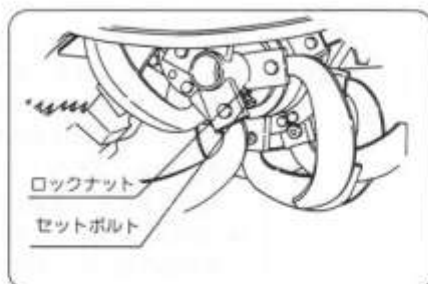


- ① クロス刃受の取付けかた  
 左側のクロス刃受は耕うん軸の血モミ位置とクロス刃受のポンチを合わせて組付けてください。  
 左側のクロス刃受は、中間位置 (60°) にしてください。



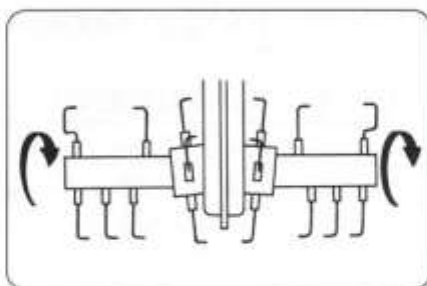
### ② 耕うん刃受の取付けかた

左右の耕うん軸の皿モミ位置に合わせて耕うん刃受を差込み、セットボルトで確実に締付けた後、ロックナットを締付けてください。



### ③ 爪の配列

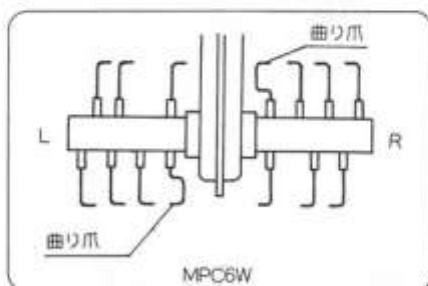
- 内側と外側では爪の回転方向が逆方向です。注意して取付けてください。



### 3) 爪配列 (MPC6W)

ロータリは正転、逆転の切替ができるため、爪の回転方向に注意して取付けてください。

- ロータリの回転方向を変更したときには耕うん刃受の左右の差替をしてください。





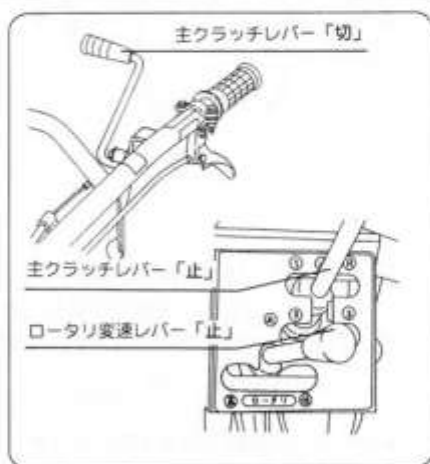
## 5 操作方法



- ★エンジン始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
- ★エンジンをかけるときや作業中は、他の人を本機に近付けないようにしてください。また、本機の周りに物を置かないでください。  
接触した物を飛ばす恐れがあります。
- ★運転中は、エンジンの高圧線や点火プラグキャップ部に触れると、電気ショックを受ける危険があります。
- ★エンジンが停止しても、エンジンやマフラーなどの過熱部分には、すぐに手を触れないでください。火傷をします。
- ★作業時以外はロータリ変速レバーは〔止〕にしてください。作業中でも旋回、バック時はロータリ変速レバーは〔止〕にしてください。
- ★エンジンの暖気運転は、閉めきった室内では、おこなわないでください。

### 5-1 エンジン始動のしかた

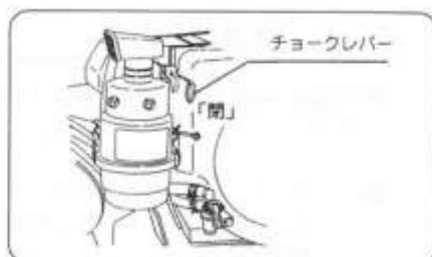
- ① 主クラッチレバーは〔切〕位置に、主変速レバーは〔止〕位置に、ロータリ変速レバーは〔止〕位置にしてください。



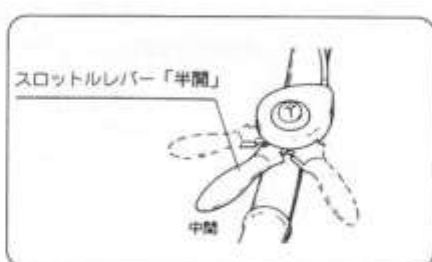
- ② 燃料コックを〔開〕位置にします。



- ③ チョークレバーを【閉】位置にします。  
(夏期間やエンジンが暖まっている場合は【開】位置で始動します)

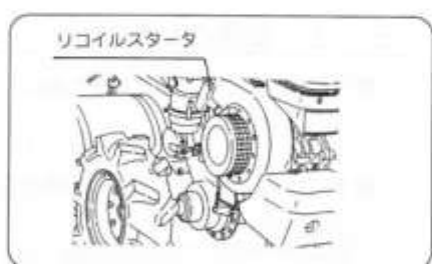


- ④ スロットルレバーを【中間】位置にします。

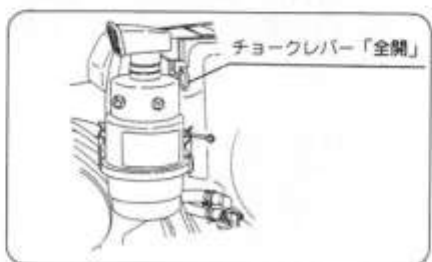


- ⑤ リコイルスタータを勢いよく引っ張りエンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に【全開】にしてください。

※リコイルスタータを3回以上引っ張っても始動しないときは、燃料の吸い込み過ぎとなりますので、チョークレバーを【閉】位置にしてから再度リコイルスタータを引っ張ってください。



- ⑥ エンジンが始動したら負荷をかけずに約5分位暖気運転をしてください。



## 5 操作方法

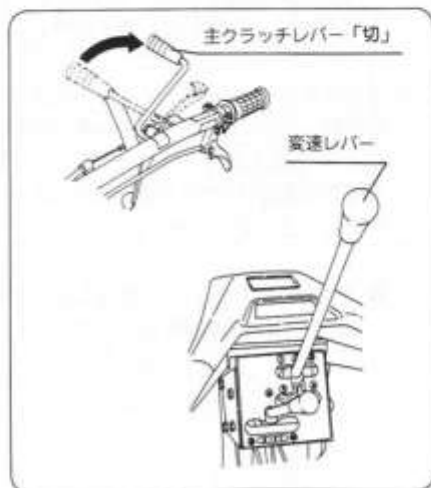
### 5-2 発進のしかた

- ① 変速レバーを希望の速度位置にしてください。
- ② 主クラッチレバーを徐々に前方に倒して【入】位置にして、ゆっくり発進してください。
- ③ スロットルレバーを内側に廻して、エンジンの回転速度を調節してください。



### 5-3 変速のしかた

- ① 主クラッチレバーを【切】位置にしてください。
- ② 変速レバーを操作して希望の速度にしてください。  
変速レバーが入りにくいときは、ギヤの噛合位置が悪いためですから無理に入れずに、主クラッチレバーを半クラッチの状態にしてから入れてください。



## 5-4 旋回のしかた



- ★前方ならびに側方によく注意して、ロータリ、その他の管理作業機に人や物が巻き込まれないようにしてください。
- ★ロータリの回転は、必ず停止してください。

- ① ロータリ変速レバーを「止」にしてください。
- ② デフミッションですから旋回したい側にハンドルを振ってから迴ってください。

※やわらかい圃場での脱出の際は、デフロックレバーを握り脱出してください。脱出後はレバーを戻してください。(MPC6X、MPC7X)

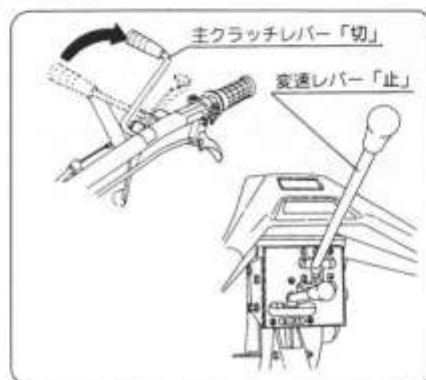


## 5-5 駐・停車のしかた



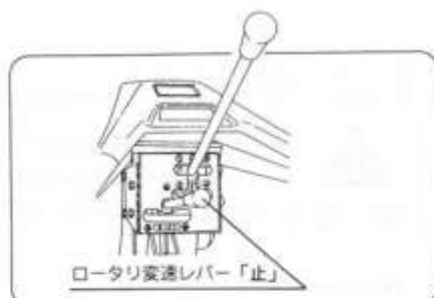
- ★機体から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。

- ① 主クラッチレバーを手前に引いて「切」位置にしてください。
- ② 変速レバーを「止」位置にしてください。

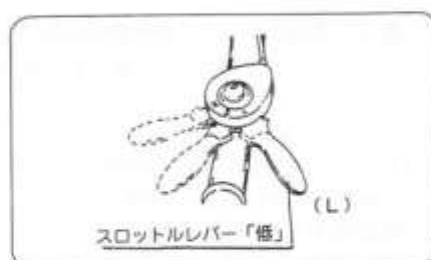


## 5 操作方法

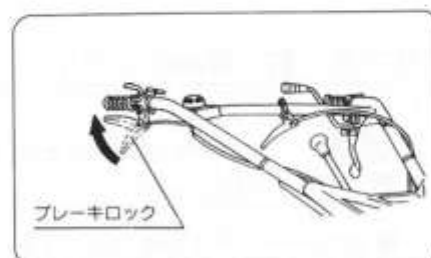
- ① ロータリ変速レバーを「止」位置にしてください。



- ② スロットルレバーを「低(L)」位置にしてください。



- ③ 坂道や傾斜地では安全のためにブレーキレバーをロックしてください。



## 5-6 トラックの積み込み・積降ろしのしかた



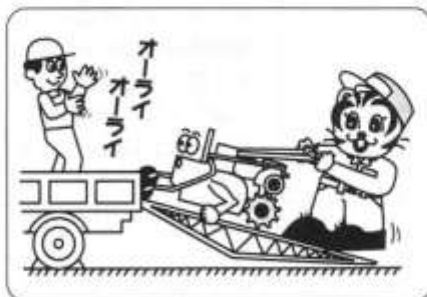
- ★積み込み・積降ろしの場合は、平坦で安定した場所を選んでください。
- ★本機の直前には、立たないようにしてください。機体が不意に動いたときに危険です。
- ★あゆみ板の上では、絶対に主クラッチレバーを「切」にしないでください。
- ★本機があゆみ板とトラック等の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。
- ★トラックなどに積んで移動するときは、充分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「車止め」をしてください。

- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。
- ② 基準に合ったあゆみ板を用意します。
- ③ あゆみ板のフックを、荷台の段差のないよう確実に掛けてください。
- ④ 左右タイヤがあゆみ板の中央に位置するように、本機をセットしてから積み込み、積降ろしをおこなってください。
- ⑤ 積み込みの場合は、前進で、積降ろしの場合は、後進でゆっくりおこなってください。
- ⑥ 燃料コックを「閉」位置にしてください。

### 〈あゆみ板の基準〉

あゆみ板は基準に合った、充分な強度のあるものをご使用ください。

- ★長さ…車の荷台高さの3.5倍以上。
- ★幅…本機の車輪幅に合ったもの。
- ★強度…本機の重量に充分耐えられるもの。
- ★表面…すべらないように処理してあるもの。



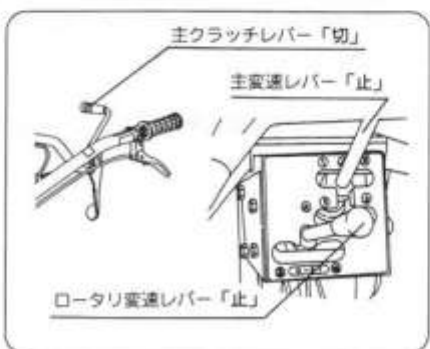
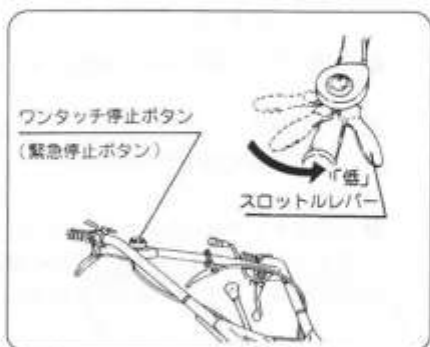
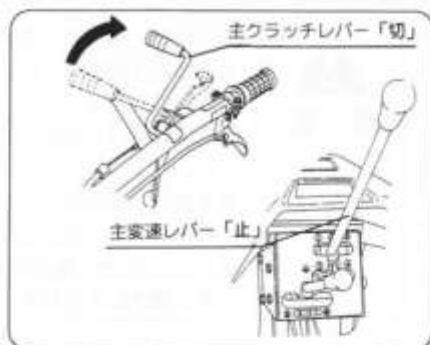
## 5 操作方法

### 5-7 エンジン停止のしかた

- ① 主クラッチレバーを〔切〕位置にしてください。
  - ② 主変速レバーを〔止〕位置にしてください。ロータリ変速レバーを〔止〕位置にしてください。
  - ③ スロットルレバーを〔低〕位置にしてください。
  - ④ ワンタッチ停止ボタン・緊急停止ボタンを押せば、エンジンは停止します。
- ★ 再始動するときは、ワンタッチ停止後5～6秒後に始動してください。



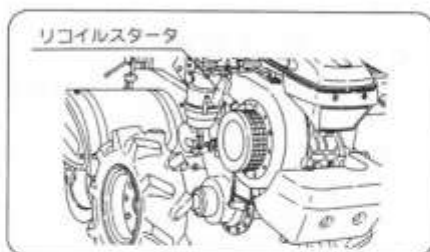
★エンジン始動（作動）中、非常事態が発生したときに停止ボタンを押して、機体全部を停止させ、不慮の事故を防止する停止ボタンです。停止ボタン使用後は、必ず主クラッチ〔切〕・主変速レバー〔止〕・ロータリ変速レバー〔止〕位置にしてください。



- ⑤ 燃料コックを「閉」位置にしてください。



- ⑥ リコイルスタータをゆっくり引いて、重たくなる位置（圧縮位置）で止めてください。



★ [エンジン緊急停止ボタン] を押せば、エンジンは止まりますが通常は必ず上の手順に従ってエンジン「止」にしてください。



## 6 作業方法



★調節をおこなうときは平坦で安定した場所でおこなってください。機械が転倒して思わぬケガをするおそれがあります。



★調節をおこなうときはエンジンを停止させてください。守らないと思わぬケガを負うおそれがあります。また過熱部分が冷めてからおこなってください。過熱部に触ると火傷するおそれがあります。

### 6-1 耕うん作業のしかた

- ① エンジンを始動します。(16頁参照)
- ② ロータリ変速レバーを【低】または【高】に入れてください。(MPC6X、MPC7X)
- ③ ロータリ変速レバーを【正】または【逆】に入れてください。(MPC6W)
- ④ 主変速レバーを希望の位置に入れて発進します。(16頁参照)

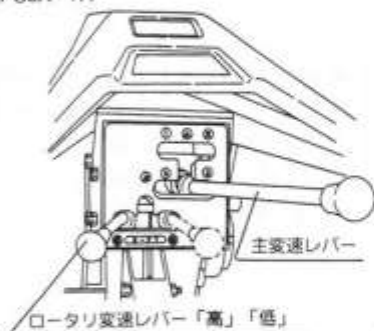


★ロータリ変速レバーを操作するときは、必ず主クラッチレバーを【切】位置にしてください。

★後進するときは、変速レバーが【低】【高】【正】【逆】に入っているときは主変速レバーは【R】に入りません。

★主変速レバーが【R】に入っていると、ロータリ変速レバーは作動位置に入りません。

MPC6X・7X

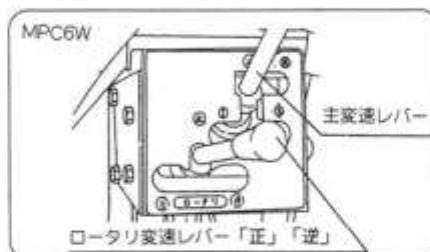
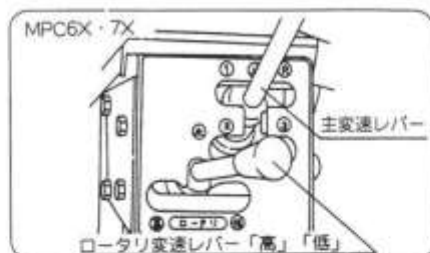


MPC6W



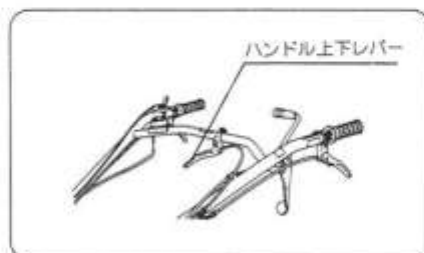
## 6-2 作業速度の選びかた

- 主変速レバーで前進3段、後進1段の変速ができます。  
(MPC6X、MPC7X)
- 主変速レバーで前進2段、後進1段の変速ができます。(MPC6W)
- ロータリ変速レバーで【低】【高】の速度が選べます。  
(MPC6X、MPC7X)
- ロータリ変速レバーで【正】【逆】の速度が選べます。(MPC6W)
- 圃場の条件により正転または逆転のいずれかを選んでください。(MPC6W)
- 機械のダッシングが発生するような圃場では逆転で使用してください。  
(MPC-6W)



## 6-3 作業に合わせた各部の調節

- ハンドル高さの換えかた  
ハンドル高さは作業者に合わせて3段階の調節ができます。  
ハンドル上下レバーを握り希望の高さに合わせてください。



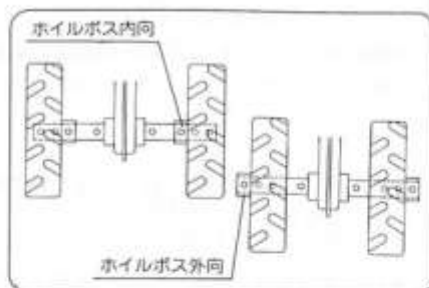
## 6 作業方法

### 6-4 車輪幅の調節のしかた

タイヤのホイールボスの内向・外向により、またホイールチューブの穴位置により車輪幅を調節することができます。

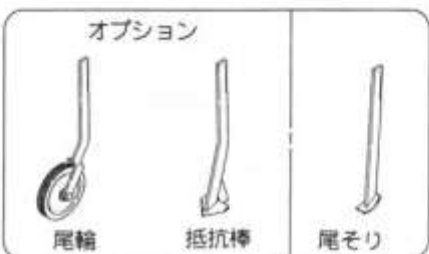


★タイヤのホイールボスを入れ替えの際は、タイヤのラグ方向に注意してください。



### 6-5 耕うん深さの調整

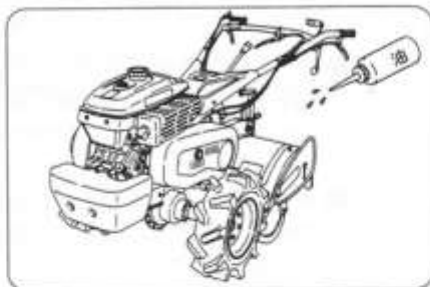
- 尾輪締付ハンドルをゆるめ、尾輪高さを適正位置にしてハンドルを締付けてください。(MPC7X)
  - 耕うん深さの微調整は尾輪調整ハンドルを廻して適正位置に合わせてください。(MPC7X)
  - 深さ調整ハンドルをゆるめ、尾そりを適正位置に合わせてハンドルを締付けてください。(MPC6X)
  - 深さ調整ハンドルをゆるめ、尾そりを適正位置に合わせてハンドルを締付けてください。(MPC-6W)
  - 尾そりで機械のダッシングが発生する場合は抵抗棒（オプション部品）を使用してください。(MPC-6W)
  - ロータリ逆転で使用の際は尾そりで作業をしてください。(MPC-6W)
- ※移動の際は尾そり及び抵抗棒を外して尾輪（オプション品）を差込んで使用しますと楽に移動できます。  
(MPC6X、MPC6W)



## 7 作業後の点検・整備

### 7-1 作業をしたら、そのたびに手入れを

- ① その日の内に水洗いをして、水洗い後はよく水分を拭き取ってください。  
(気化器・エアクリーナ注水厳禁)
- ② ワイヤ、レバー等の回動、摺動部に注油してください。



### 7-2 定期点検と整備



★定期点検をおこたると、機械が故障したり安全性を損ないます。

#### 点検・整備表

一般的な使用条件の下での点検・整備の項目とその時期

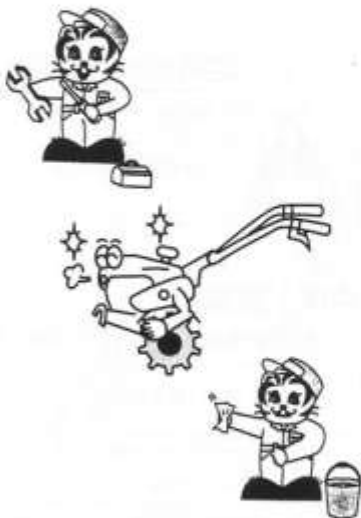
点検・整備の項目	点検・整備時間				
	毎運転前	25時間	50時間	100時間	随時
●エンジンオイルの点検と補給	○				
●エンジンオイルの交換		初回のみ ○	○		
●ミッションオイルの交換			初回のみ ○	○	
●エアクリーナの清掃	○				
●ストレーナの掃除			○		○
●点火プラグの点検・清掃			●		
●レバー類の作動と点検	○				
●ベルトの点検と調整		●			○
●作動部への注油等	○				
●ボルト、ナットの点検	○				

●印項目は、高度な技術や工具等が必要ですので販売店に依頼してください。

## 7 作業後の点検・整備

### (1) エンジンオイルの点検と補給

- ① オイルゲージを取外してください。
- ② きれいな布でゲージに付いている油を拭取り、もう1度補給口に差込み、油の量を確かめてください。
- ③ 油の量が不足していたら、給油口から規定のエンジンオイルを静かに注入してください。



## (2) エンジンオイルの交換



### 注意

- ★排出するエンジンオイルで火傷をしないように注意してください。
- ★必ず規定のエンジンオイルを使用してください。
- ★初回は少なくとも25時間機械を使用したら、オイル交換をしてください。

### ○使用オイル

SC級、SD級、SE級の良質の新しいオイルを使用してください。

夏期間～SAE-30・SAE10W-30・SAE10W-40

冬期間～SAE-20・SAE10W-30

### ○オイル交換の量

本機形式	エンジン形式	オイル量
MPC6W	GM181LN-371	0.7 ℓ
MPC6X	GM181LN-371	0.7 ℓ
MPC7X	GM231LN-361	0.9 ℓ

- ① ドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出してください。（エンジンが暖かい内に拭取るとオイルが抜けやすくなります）
- ② エンジンクランク室の給油口のプラグを外してください。
- ③ 汚れたオイルが完全に無くなったら、ドレンプラグを確実に締付けてください。
- ④ エンジンを水平にしてください。
- ⑤ エンジンオイルを給油口からゆっくりと流し込んでください。
- ⑥ とまどき給油口にオイルゲージをねじ込まずに差込んで、オイルの量を確認してください。オイルゲージのFレベル（正規上面レベル）までオイルを注入してください。
- ⑦ 給油プラグを確実に締付けてください。

## 7 作業後の点検・整備

### (3) ミッションオイルの交換



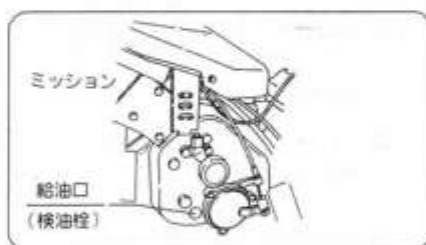
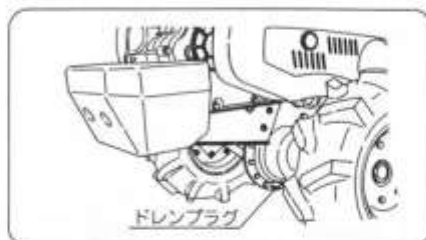
- ★必ず規定の良質ギアオイルを使用してください。
- ★初回は少なくとも50時間機械を使用したら、オイル交換をしてください。2回目以後は1年に1回又は、100時間毎オイル交換をしてください。

#### ○オイル交換の量

ミッションオイルSAE90番 2.5ℓ  
(MPC6X・MPC7X)

ミッションオイルSAE90番 2.3ℓ  
(MPC6W)

- ① 排油口のドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出してください。  
(オイルが暖かい内に抜取るとオイルが抜けやすくなります)
- ② トランスミッションの検油栓を外してください。
- ③ 汚れたオイルが完全に無くなったらドレンプラグを確実に締付けてください。
- ④ 機体を水平にしてください。
- ⑤ 給油口からミッションオイルSAE90番をゆっくりと流し込んでください。
- ⑥ 注油栓を確実に挿入してください。

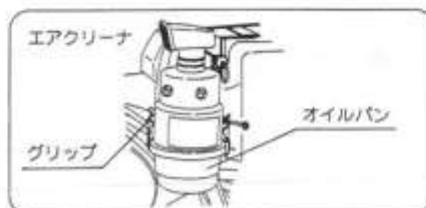


### (4) エアクリーナの手入れ

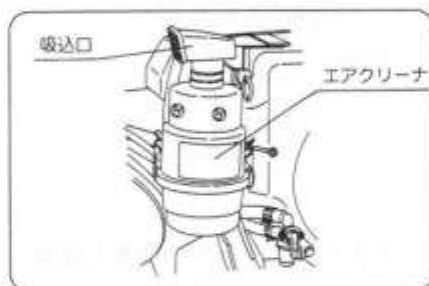
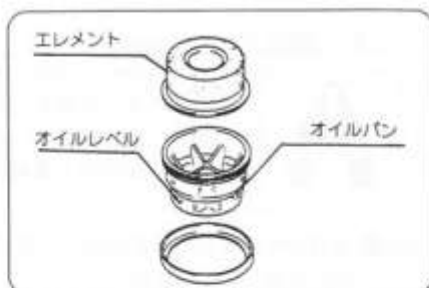


- ★エアクリーナエレメントやエアクリーナのオイルが汚れていたり、少なくありませんか。
- ★エレメントが汚れたまま使用すると、エンジンの出力低下や故障の原因になります。
- ★エアクリーナの吸込口は、ホコリの少ない方向に向けてください。

- ① グリップを外し、オイルパンおよびエレメントを取外してください。



- ② オイルが不足しているときは、オイルレベルまで補充してください。汚れがひどいときにはオイルパン・エレメント共、白灯油で洗浄しエレメントはエンジンオイルに浸し滴下しない程度に振り切ってください。
- ③ オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイル（SC級以上）をレベルまで入れてください。
- ④ エアクリーナの吸込み口をホコリの少ない方向に向けてください。

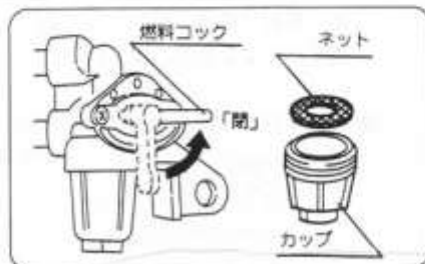


### (5) ストレーナの手入れ



★ストレーナに水やゴミが異常に多いときは、新しい燃料に交換してください。

- ① 燃料コックを [閉] にしてください。
- ② ストレーナを取外して、底に沈澱しているゴミや水を抜取ってください。
- ③ ストレーナカップとネットを洗浄してください。





## 7 作業後の点検・整備

### (6) 燃料パイプの交換

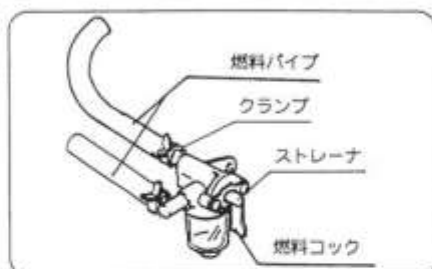


#### 警告

★燃料パイプに傷などがあると、ガソリンが漏れて火災を起こすことがあります。

★高度な技術や工具等が必要ですので、販売店に依頼してください。

- ① 自然劣化したり、傷のあるパイプは早めに交換してください。  
燃料系統の部品は、たびたび点検し、ひび割れや漏れがないかを確認し、必要があれば交換してください。



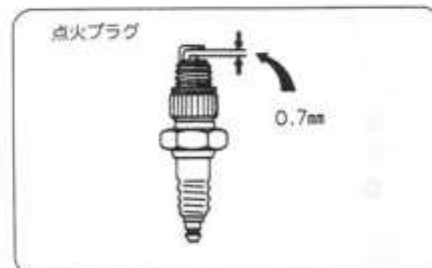
### (7) 点火プラグの調整と交換



#### 注意

★点火プラグの火花間隔は0.7mmが適正です。  
★高度な技術や工具等が必要ですので、販売店に依頼してください。

- ① エンジンの調子が悪いときには、点火プラグに原因があることもあります。プラグを取り外し、電極に付着のカーボンを取り除き、紙ヤスリで磨いて、電極スキマを調節します。
- ② 調整が終わったら点火プラグを元に位置にねじ込みプラグキャップを確実に差込んでください。



#### 点火プラグ品番

メーカー名	NGK	デンソー	チャンピオン
品番	BP5ES	W16EP	N11YC

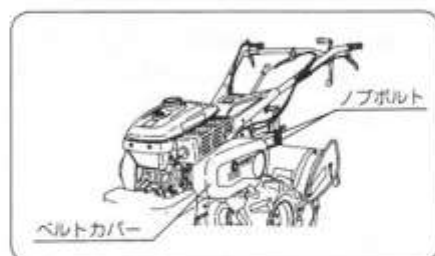
## (8) レバー類の作動点検と調整



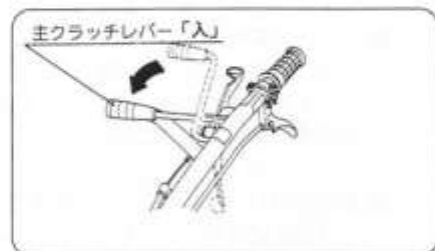
- ★レバー類を調整したら、必ずこれらが確実に作動するか確認してください。
- ★点検・調整のために取外したカバー類、ボルト、ナット類は、必ず元の位置に取付けてください。

1) 主クラッチレバーを前に倒すと、クラッチが【入】となります。主クラッチレバーを手前に引くとクラッチは【切】となります。

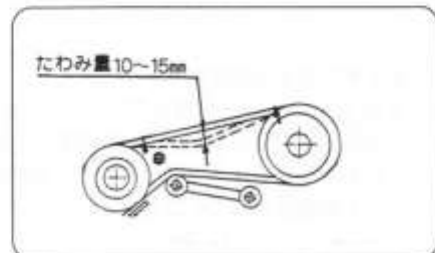
❶ ベルトカバーを取外してください。



❷ 主クラッチレバーを【入】位置にしてください。

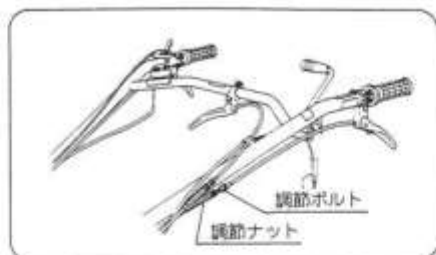


❸ ベルトの中央を指で軽く押さえて、ベルトのたわみ量が10～15mmになるように調節してください。

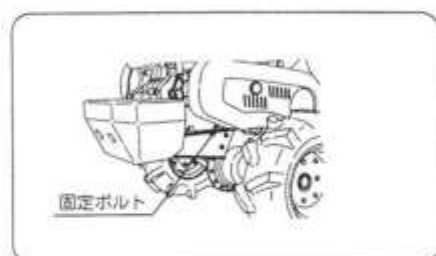


## 7 作業後の点検・整備

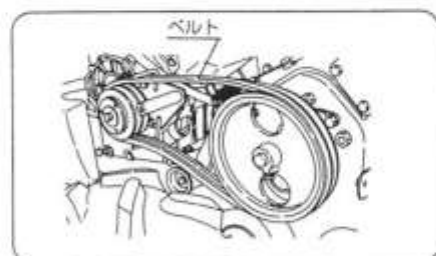
- ④ ワイヤの調節は、ワイヤの調節ナットをゆるめて調節ボルトを回してアウターの長さを替えて調節をおこなってください。



- ⑤ 調節ナットの調整だけでは、不完全な場合はエンジンの固定ボルトをゆるめ、エンジンの位置を調整してください。



- ⑥ ベルトの摩耗が著しいときや破損しているときは、ベルトを交換してください。交換するときは、LA-40 2本を同時に交換してください。



- ⑦ 調整が終わったらエンジンの固定ボルトを確実に締付け、ベルトカバーを必ず取付けてください。

### 2) デフロックの調整

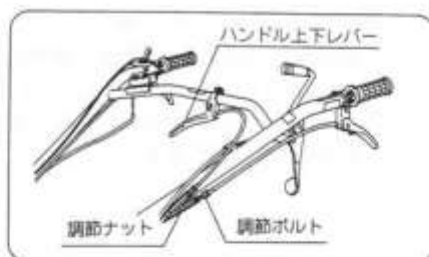
- デフロックレバーを握ってロックした際、車輪に負荷がかかっても同輪回転が円滑におこなえるよう、調節ボルト・調整ナットの調整をしてください。



### 3) ハンドル上下調整

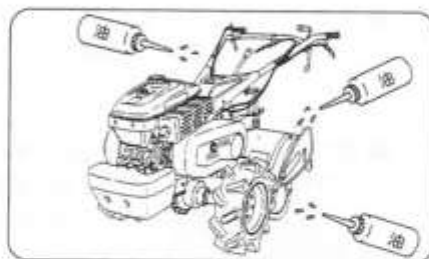
作業者に合わせて、操作しやすい位置に合わせてください。

ハンドル上下レバーを握り、先端のピンの出入りが足りない場合、調節ボルト・調節ナットの調整を行ってください。調節ボルト・調節ナットを長くするとピンの入りが深くなり、調節ボルト・調節ナットを短くするとピンの入りが浅くなります。



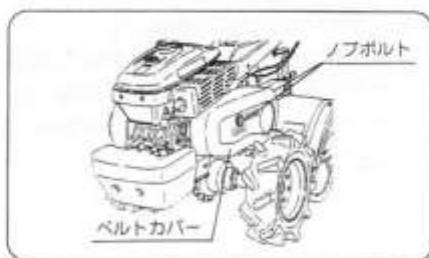
### 4) 注油

- ① レバー類、軸受部、開閉カバーのリンク部分等の作動部には、油差して注油してください。
- ② すべてのワイヤはワイヤを作動させながら注油をしてください。



### 5) ベルトの交換

- ① ベルトカバーを外します。



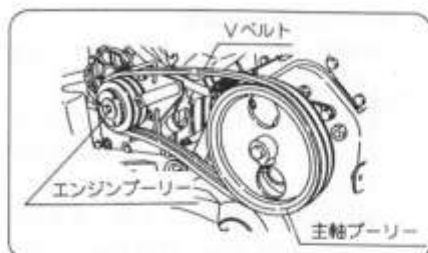
- ② 主クラッチレバーを【切】位置にしベルトをゆるんだ状態にします。



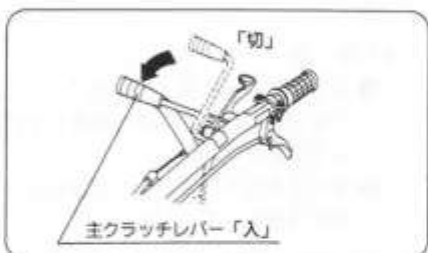
## 7 作業後の点検・整備

- ④ ベルトは主軸プーリー側を先に外し次にエンジンプーリー側を外します。

※エンジンプーリー側から先にベルトを掛けると楽に掛けられます。



- ⑤ 主クラッチレバーを「入」にしてベルトが適正に張れているか確認してください。

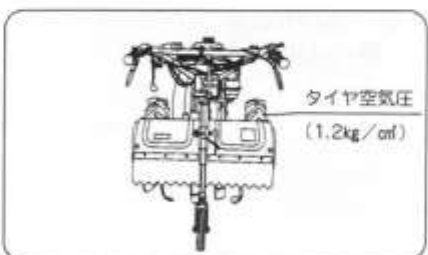


- ⑥ 主クラッチレバーを「切」にして軽くリコイルを引っ張ってベルトが付き廻りしないことを確認してください。

- ⑦ ベルトカバーを取付けてください。

### 6) タイヤの空気圧の調整

- タイヤの空気圧を $1.2\text{kg}/\text{cm}^2$ 位に調節してください。左右の空気圧が均等になっていないと作業中にハンドルを取られることがあります。



## 8 長期間使用しないときの格納のしかた



★燃料を抜くときには、火気は厳禁です。風通しのよいところで作業してください。抜取ったガソリンは安全なところに保管してください。

### (1) 清掃、洗浄、注油

- ① 車輪や作業機等に付着した泥、ゴミ、屑等は、よく落として水洗し、水洗後は水分をよく拭取って乾燥してください。
- ② 回転部、摺動部には、たっぷりとオイルを差してください。

### (2) クラッチレバー等

- 主クラッチレバーは [切] にして、ベルトに無理な力が加わらないようにしてください。

### (3) オイル交換

- オイル交換の時期になっているときは、定期点検の手順に従ってオイルの交換をしてください。

### (4) 燃料の抜取り

- ① エンジンが30日以上使わないときは、燃料変質による始動不良等を防止するために気化器内の燃料を燃料ドレンノブを引き抜いてください。また、燃料コックから燃料タンクの燃料を抜いてください。

★このとき、燃料の取扱には充分注意をしてください。

★火気厳禁

- ② 点火プラグを外して、シリンダ内にエンジンオイルを2～3cc注入し、クランク軸を数回まわして点火プラグを取付け圧縮のあるところで止めてから、保管してください。
- ③ 外面は油のしみた布で清掃してください。

### (5) 格納

- 車輪の下には板を敷いてください。



## 9 不調診断

### 注 意



★エンジンの整備には、特別な工具やエンジンの専門工場でないといけないものがあります。

★使用者が整備できる項目とその対策のみを示してあります。

不具合内容	対 策 方 法
エンジンの始動不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃料を確認してください 燃料を規定量入れてください。</li> <li>● エンジンの始動手順を確認してください 正しい始動手順でエンジンをかけてください。</li> <li>● 燃料コックを確認してください 燃料コックを【開】にしてください。</li> <li>● 燃料が流れているか確認してください 燃料パイプの詰まりを調べてください。 燃料ドレンノブを引いて確認してください。</li> <li>● 燃料が良好なものかを確認してください。 新しい燃料と交換してください。</li> <li>● 燃料に水が混入していないかを確認してください ストレーナに水が溜まっていれば、水抜きをしてください。</li> <li>● 点火プラグを確認してください。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①点火プラグが乾いているときは 燃料がシリンダまで流れていないので、その対策をしてください。</li> <li>②点火プラグが濡れているときは 燃料の吸いすぎですので、プラグの湿りを拭取り、チョークを【開】にしてリコイルスタータを1～2回まわして、吸いすぎた燃料を排出してください。エアクリーナを清掃してください。</li> <li>③点火プラグが不良な場合 新しい点火プラグと交換してください。</li> </ul> </li> </ul>

不具合内容	対 策 方 法
エンジンの始動不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エアクリーナを確認してください 目詰まりを取るよう清掃してください。</li> <li>● リコイルスタータのエアの入口が詰まっているかを確認してください 目詰まりを取るよう清掃してください。</li> <li>● エンジンオイルを確認してください 補充、または交換してください。</li> <li>● ベルトを確認してください ベルトが張りすぎているので、適正な張りにしてください。</li> <li>● ロータリ耕うん装置のカバーの内部を確認してください カバーの内部を清掃して、付着している草や土を取除いてください。</li> <li>● エンジンの回転は上がりますか アクセルレバー取付位置が動いてから、元の位置に確実に固定してください。</li> <li>● エンジンの圧縮はありますか 点火プラグおよびシリンダヘッドボルトを、締め付けてください。ピストンリングなどの摩耗も考えられますので、購入先に相談してください。</li> </ul>
主クラッチレバー 始動不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワイヤを確認してください。 ワイヤが伸びている場合が多いので、ワイヤを調整してください。</li> <li>● ベルトを確認してください。 ベルトの張りを調整してください。</li> </ul>
各部に振動が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エンジンが振れるのではありませほんか エンジン取付ボルトをしめ直してください。</li> <li>● ハンドルが振れるのではありませほんか ハンドルの取付ボルト、ロータリの爪の締付ボルト等を締直してください。</li> </ul>



## 10 特 長

### ①快適なエンジン

低騒音、低振動で、しかも高出力のOHVエンジンを搭載し、軽い引張力で始動ができるリコイルスタータを採用してありますので、楽に始動できます。

### ②緊急停止

ワンタッチでエンジンの停止ができる【緊急停止ボタン】を付けてありますので、より安全な作業ができます。

### ③1軸正逆転ロータリ

1軸正逆転ロータリの採用によりダッシング防止を計ることができ、安心して作業ができます。またロータリの回転も【低】【高】の2速ありますので、碎土効果も良好です。  
(MPC6X、MPC7X)

### ④正逆転ロータリ

ロータリの回転方向も【正転】【逆転】がありますので、圃場に合わせた作業ができます。  
(MPC6W)

### ⑤ハンドル高さワンタッチ

ハンドル高さの調整は作業者に合わせてレバーを握るだけで調節できます。

### ⑥デフミッション採用

デフミッションを採用しておりますので、旋回が楽になりました。  
軟らかい圃場での脱出の際は、デフロックレバーを握れば脱出できます。  
(MPC6X、MPC7X)

### ⑦優れた安全性

後進の際にはロータリは入りません。またロータリが入っていると後進には入らない安全設計となっております。

## 11 仕 様

型 式		MPC7X	MPC6X	MPC6W
寸 法	全 長 (mm)	1,500	1,500	1,500
	全 幅 (mm)	720	620	620
	全 高 (mm)	950	950	900
重 量 (kg)		160	150	120
主クラッチ方式		ベルトテンション	ベルトテンション	ベルトテンション
操 向 装 置		デフミッション、 デフロック付	デフミッション、 デフロック付	デフミッション
変 速 段 数		F3、R1	F3、R1	F2、R1
車 速	前 進 1 速 (km/h)	0.8	0.7	1.1
	2 速 (km/h)	1.3	1.1	3.5
	3 速 (km/h)	4.0	3.5	-
	後 進 1 速 (km/h)	1.5	1.3	1.3
タイヤサイズ		400-7	3.50-7	3.50-7
輪 距 (mm)		580	500	500
ハンドル上下調節		3段(ワンタッチ)	3段(ワンタッチ)	3段(ワンタッチ)
ブ レ ー キ 装 置		乾式内部拡張式	乾式内部拡張式	乾式内部拡張式
ロ ー タ リ 方 式		1軸正逆転 クロスセンター式	1軸正逆転 クロスセンター式	正転・逆転
ロ ー タ リ 回 転 (r.p.m.)		低:225 高:283	低:225 高:283	正転:212 逆転:345
作 業 幅 (mm)		600	560	560
作 業 能 率		1.5~2.0h/10a	1.5~2.0h/10a	1.5~2.0h/10a
エ ン ジ ン	エンジン型式	GM231LN-361	GM181LN-371	GM181LN-371
	エンジン出力 (ps)	5.0~7.0	4.5~6.0	4.5~6.0
	排 気 量 (cc)	215	181	181
	タンク容量 (ℓ)	4	3	3
	潤滑油量 (ℓ)	0.9	0.7	0.7
	エアークリーナー	マンタイプオイルバス式	マンタイプオイルバス式	マンタイプオイルバス式

## 電気配線図

